

【講師のプロフィール】

石井 吉徳(いしい よしのり)氏

もったいない学会長、東京大学名誉教授。1955年東京大学理学部物理学科(地球物理)卒業。(株)帝国石油、石油開発公団、(株)石油資源開発などを経て、71年東京大学工学部資源開発工学科助教授、78年教授。93年退官し名誉教授。国立環境研究所副所長を経て96年から98年まで所長。富山国際大学教授、物理探査学会長、日本リモートセンシング学会長、日本学術会議会員、NPO地球こどもクラブ会長などを歴任。著書に『リモートセンシング読本』1981、オーム社、『エネルギーと地球環境問題』1995、『国民のための環境学』2001、共に愛智新書、『豊かな石油時代が終わる』2004、丸善、『石油最終争奪戦—世界を震撼させる「ピークオイル」の真実』2006、『石油ピークが来た—崩壊を回避する「日本のプラン B」』2007、『(知らなきゃヤバイ)石油ピークで食糧危機が訪れる』2009、日刊工業新聞など。

糸長 浩司(いとなが こうじ)氏

日本大学生物資源科学部教授、東京工業大学大学院修了、工学博士、一級建築士。農村建築学会理事・編集委員長。NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン代表、NPO法人エコロジー・アーキスケーブ代表、日本のエコビレッジ、パーマカルチャー、トランジションタウンなどの活動をリードしている。日本全国での環境共生型で住民参画の村づくりを指導。20年近くエコロジカルで自立型の飯館村のむらづくりを指導・支援してきた経緯から、今回の震災、原発事故においては、飯館村後方支援チーム代表を務め、震災時からの継続的な支援活動をしている。著書には、『地球環境時代のまちづくり』(丸善)、『地域環境デザインと継承』(彰国社)、『2050年から環境をデザインする』(彰国社)などがある。

吉田 太郎(よしだ たろう)氏

1961年生まれ、筑波大学卒業。ソ連東欧圏の崩壊後、危機を転機にして自給自足の社会を再生・創造し、冷戦時代のモノカルチャー状態を脱していったキューバを現地に入って精力的にレポートしてきた。持続可能な社会へむけた社会経済的な具体的方向性を"農"の回路を通じて展望する。農業行政に携わりながら、自らも休日に百姓をしていることでも知られる。おもな著作として、『200万都市が有機野菜で自給できるわけ【都市農業大国キューバリポート】』『1000万人が反グローバリズムで自給・自立できるわけ【スローライフ大国キューバリポート】』(築地書館刊)などがある。

藤田 和芳(ふじた かずよし)氏

1947年岩手県の農家に生まれる。上智大卒。1975年に市民NGO大地を守る会、77年に社会的企業のさきがけとなる株式会社大地を設立。日本で最初に有機野菜の生産・流通・消費のネットワークづくりを推進。83年からNGO「大地を守る会」会長、株式会社「大地を守る会」代表取締役。100万人のキャンドルナイト呼びかけ人代表、アジア農民元気大学理事長、ふるさと回帰支援センター理事、食料・農林漁業・環境フォーラム幹事、日本NPOセンター評議員、ソーシャルビジネスネットワーク代表理事。著書に『有機農業で世界を変える—ダイコン一本からの「社会的企業」宣言』(2010年工作舎)など。

出雲 充(いずも みつる)氏

株式会社ユーグレナ代表取締役。2002年東京大学農学部農業構造経営学専修過程修了、株式会社東京三菱銀行(当時)入行。2004年米パブソン大学プライス・バブソンプログラム修了、2005年株式会社ユーグレナ設立。2007年中華全国青年連合会主催第一回日中韓若手経済人コンテスト新人賞受賞。ユーグレナ(ミドリムシ)の特性を生かし、食料問題、環境問題など地球の課題の解決を目指している。

古沢 広祐(ふるさわ こうゆう)氏

1950年東京生まれ。1974年大阪大学理学部生物学科卒。京都大学大学院農学研究科(農林経済)博士課程研究指導認定。農学博士。目白学園女子短期大学助教授を経て、95年より現職。「環境・持続社会」研究センター(JACSES)代表理事。著作は『共生時代の食と農』(家の光協会)、『共生社会の論理』(学陽書房)、『地球文明ビジョン』(NHKブックス)など多数。